

聖書箇所 詩篇23：1－6

- 1：主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。
- 2：主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。
- 3：主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。
- 4：たとえ、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。
- 5：私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油を注いでくださいます。私の杯は、あふれています。
- 6：まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。

メッセージ骨子：

<序論> 詩篇の多くはダビデの作だと言われています。BC10世紀に、当時世界最大のイスラエル王国を築き、40年の長期政権の後、息子ソロモンの時代にその王国が最盛期を極めるなど、まさにダビデこそ理想の王様というイメージですが、実は初代サウル王に命を狙われたり、息子アブシャロムのクーデターに遭ったり、部下の奥さんを妊娠させたりなど、仔細に見ると波乱万丈の人生でした。実は私たちの人生も、人の知らないところでバランスを崩し、破綻に瀕するときがあるものです。が、そんな辛く孤独な状況を、神はどのようにフォローしてくださるのでしょうか。

<ポイント1> 「主はでこぼこ人生を平らにしてくださる」

ダビデは女性に弱いと言う最大の欠点を持っていました。戦地で戦う、愛する部下ウリヤを裏切り、その奥さんを妊娠させた挙句、ごまかしが効かないとなると今度は最も戦況激しいところに夫を送り込ませ、殺させます。その罪を預言者ナタンに指摘されると「私は主に対して罪を犯した」と自分の罪を認め、悔い改めます。自分の弱点を抱え込まずに神の前にさらけ出し、それに思いっきり泣けたとき、神はこのダビデの「でこぼこ人生」の亀裂に、愛と慰めを満たし、フラットでまっ平らの人生に作り変えてくださったのです。

<ポイント2> 「主はあたえられた賜物で励ましてくださる」

ダビデは宿敵サウル王の息子ヨナタンと強い友情で結ばれます。またサウル王から逃げ回る間400人もものならず者が危険覚悟でダビデにつき従いました。3人の勇士がダビデの飲み水を汲むために、死を覚悟して敵陣まで走ったことも聖書に記されています。ダビデは、その戦う能力はいうまでもなく、人間力、つまり信頼関係を築きそれをいつまでも大事にする心を持っていましたが、この2つの賜物が、彼の王国建設を可能ならしめた2大要素だったと言われています。たとえ小さいことと見えても、「これに賭けます。この賜物を神にお捧げします」と神にお返しするとき、それを通して主は、最大の栄光を表し、そしてそれがあなたの生きる力、生きる意味となるのです。

<ポイント3> 「主は神の名代と呼び、強め、支えてくださる」

誤解と偏見で自分の命までつけねらい始めたサウル王が、すでに悪霊につかれて王として機能しない状態であったことは、そばに居たダビデが一番よく知っていたのではないのでしょうか。しかしそれはダビデにとって、神の選びをくつがえすものではありませんでした。それゆえ、時を経て自分が王として油注がれたあとも、たとえ戦いに負けようが、息子のクーデターで国を追われようが、自分の王位はそんなもので揺るがないという確信がダビデにはありました。神の名代として国を治めている。これは神がすえた地位である。目の前の現象でなく神の約束に生きる。この信仰がダビデをして不動の王にしたのです。

<まとめ> 私たちの人生にはでこぼこはつきものですが、それゆえに主にお出会いしたひとがたくさんいます。ニックブイイチは、四肢欠損症で生まれ、一度は死のうとしましたが信仰を持ち、それからはその生き方、考え方によって300万人の人に、生きる希望を与えてきました。星野富広さんは、体育教師になった直後、事故で全身麻痺になりましたが、それから信仰を持ち、そのすばらしい詩画で人々に感動を与えてきました。主に人生の陥没を埋めていただき、その賜物をにぎり、主の名代として生きる時、私たちは、この世においては空を駆ける自由を持ち、天においては永遠の主の勝ち名乗りを聞く事ができるのです。

『主を待ち望むものは新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。』(イザヤ40：31)